令和３年７月９日

総務大臣　殿

郵便番号　100-0005
住　　所　東京都千代田区丸の内 1-8-1
（ふりがな）　かぶしきがいしゃいんたらくてぃーう゛ぃ
名称　株式会社インタラクティーヴィ
（ふりがな）　だいひょうとりしまりやくしゃちょう　ささじま　かずしげ
代表者の氏名　代表取締役社長　笹島　一樹

放 送 番 組 審 議 会 に つ い て （ 報 告 ）

標記について、放送法施行令第８条第３号イの規定に基づき、令和３年６月期について、別添のとおり報告します。

※別添として議事概要等を添付

株式会社インラタクティーヴィ　番組審議委員会議事録

1．開催日時：

令和３年６月 11 日(金)に開催予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

2．参加者：

委員総数：　　７名

参加委員数：　　７名

参加委員の氏名：

（敬称略、五十音順）

植田 益朗、音 好宏、片山 哲郎、砂川 浩慶、村上 憲一、中川 幸美、吉岡 忍

放送事業者側：

株式会社インタラクティーヴィ

代表取締役社長　　髙木　明夫

取締役　　笹島　一樹

エーアンドイーネットワークスジャパン 合同会社　＜ヒストリーチャンネル　日本・世界の歴史＆エンタメ＞

General manager　　ジョン・フラナガン

編成制作部　ディレクター　　福井　靖典

ジュピターエンタテインメント株式会社　＜女性チャンネル♪LaLa TV＞

代表取締役社長　　住田　和嘉子

取締役 兼　編成制作部長　　秋元 美加

編成制作部　副部長　　伊妻　顕子

事務局：

株式会社ジュピターテレコム　メディア事業推進部

木村 秀行、斎藤 弘之、廣田 結子

3. 議題

株式会社インタラクティーヴィで放送する 6 チャンネルの内、「ヒストリーチャンネル　日本・世界の歴史＆エンタメ」、「女性チャンネル♪LaLa TV」の番組内容、編成内容について。

4. 審議内容

①「ヒストリーチャンネル　　日本・世界の歴史＆エンタメ」の編成およびオリジナル番組「東京レガシー」について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

―日本の視聴者が期待するのは、西側先進諸国を中心に、世界中に視聴者を持つヒストリーチャンネルが、日本社会をどのように考察し、描くかということだろうから、ハーバード大のアンドルー・ゴードン教授や、コロンビア大学のキャロル・グラッグ教授のような、日本以外の社会で生まれ、学んだ、日本研究者からのコメントも合わせて聞いてみたかった

―歴史を追った作品はよく見るシーンが続くものだが、案外少なかった。独自に探し、あるいは撮影した映像で、よく知っているはずの歴史に関しても新鮮な印象があった。

―在東京のジャーナリスト、作家、社会学者、歴史家の批評的コメントに加え、力道山の息子や起業家などの当事者、当事者に近い人の証言を適宜集めていて、丁寧な作りを感じさせる。人選の目配りもよい。

―多国籍化した東京には多くの外国人が暮らし働いているが、こうした側面についても真正面から取り上げてもよかったのではないか。

―75 年という歴史を時代的エポックをほぼ省略せずに 90 分に収めたことは驚きである。

―学生運動やバブル、その崩壊など、出来事だけを伝えていて、背景や関連性が語られていないので見応えはなかった。若い視聴者を意識したなら、その当たりの掘り下げがあった方が良いと思う。

―歴史考察は一筋縄ではいかず、立場や思想によって多様な解釈ができるが、本作はアップテンポに歴史を伝える小気味よさがあった。

<事業者回答>

※委員からの意見に対し制作サイドから（ヒストリーチャンネル　福井氏）

―本作は日本の視聴者だけでなく世界の視聴者も、より理解が進むよう制作致しました。

―TOKYO LEGACY というタイトルでありながら、一部日本全体と東京との住み分けが混じってしまったこともあり、今後はその点もうまく対応していきたいと思います。

―今後も引き続き、グローバルな視点からみた日本人が知らなかった真実を伝えていけるような、オリジナルコンテンツ制作を実施していきたいと思います。

②「女性チャンネル♪LaLa TV」の編成およびオリジナル番組「新作ドラマナビ　パラディーゾ～恋する百貨店」について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

―短い時間の中で本編の魅力を存分に伝えられているが、作品の舞台となるイタリアの社会・文化についても、もっと触れて欲しかった。

―スピード感と、めりはりのきいたプロットを入れ込んで、新しい視聴者を取り込む努力をつづ

けてほしい。
―伝統的な英米のドラマに加え、韓流や中国ドラマが全盛の中で、他の国のドラマを紹介してもらうことは意義あることであり、今後も続けてほしい。
―紹介番組に関しては、１シーズンが長いドラマの場合、途中までの回をまとめたものなど、何度か編成できると良いと感じた。
―イタリアドラマは珍しいし、終戦後の百貨店が舞台というのも興味深いが、現代のイタリアドラマはどうなっているのか、知りたくなった。
―スタッフ、キャストのバイオグラフィー、イタリアでの評判、今のイタリアテレビ界はどうなっているかなどをもっと知りたかった。
―テンポの良さ、的確なナレーション、慌ただしさも感じることなく纏まっている。
―ナビ番組としては巧く纏まっているが、オーソドックスなダイジェスト版になっているので、個性や工夫が見られなかったのは残念。

<事業者回答>
※委員からの意見に対し制作サイドから（LaLa TV　伊妻氏）
―今回、イタリアのドラマという事で他国の作品より情報が非常に少なく、番組の企画性やクオリティを維持する為の情報収集に非常に苦労致しました。
―より個性のある作り方や、長いシリーズ作の編成工夫等の参考に致します。

以上